

校長室から (NO. 11)

「落ち葉と『はっば隊』」



一年生と接していると、意外なことから気づきが生まれ、教えられることが多々あります。

数週間前のことです。

自然の摂理に従って、本校の木々も落葉し始めました。朝の玄関前の挨拶の合間に落ち葉掃きをしていましたら、手伝ってくれる子が一人増え、二人増えし、十名程度になりました。主に、下学年の子供たちです。

小さな子たちの手でも、結構きれいになります。私もうれしく、笑顔。

そのうち、一年生のある男の子が「ぼくたち、『はっば隊』だね」と言いました。

「ああ～！それはいいね～」と感嘆し、それからなぜだか、みんな、がぜん精が出ました。

次の日も、次の日も、『はっば隊』の子たちは集まってきます。

もともと落ち葉掃きは、「ちょこボラ」です。自主性をモットーとします。ですから、「好きなとき、誰でもどうぞ」、それでもよかったです。

ところが、『はっば隊』というチーム名が付いたとたん、そこに連帯感や責任感がうまれる瞬間がありました。

おそらく、一年生の男の子は、共に働くことに心地よさを感じてのアイディだったのでしょう。けれど、大人の私は、人間がなぜコミュニティを大切にするのか、人間が力を合わせる際に働かせる本能的な術（すべ）、そして、名前を付ける価値をしみじみ考えることとなりました。

すこし大げさかもしれませんが、このような思いに浸れたのも、秋からの贈り物。

枝にしがみ付いている葉も残りわずか。『はっば隊』とのお付き合いも残りわずか。

少し寂しいです。

